

<h1>第308回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長	企画運営委員

- ◎ 日時 2018年12月21日（金）13：00～16：30
- ◎ 場所 きゅりあん 6階 大会議室
- ◎ 出席者 39名（法人会員：34名 個人会員：5名）

## 1. 「リスクアセスメント委員会報告について」

13:00－14:00 リスクアセスメント委員会

### 【概要】

リスクアセスメント委員会の今年度の活動を振り返り、まとめの方向性についても報告。

リスクアセスメントへの適用の1つとしてユーティリティ追跡法(UHIM手法)と安全要求仕様書の活用について議論してきた。

1. 設計者視点からユーティリティ追跡法を活用し重要危険源を同定することで、リスクの見落としを防止できる。
2. ユーザーの様々な使用方法により新たな危険源が発生するので、ユーザーからの安全要求仕様書が必要である。
3. 「被災の可能性はどのように評価すべきか」についての委員会資料について概略を説明。

上記からユーティリティ追跡法を発展させた危険源同定の新しいアプローチの提案（エネルギー分析法）など12月の委員会でテーマ確認及びスケジューリング検討する。

### 配布資料

308-1-1「第6回RA委員会」報告」

308-1-2「被災の可能性」はどのように評価すべきか」

## 2. 記念講演

「労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001 及び JIS Q 45100 について」

14:15～16:15 明治大学 向殿 政男 名誉教授

### 概要

「機械安全の本来の目的は、労働者の安全と健康の確保を目指す労働安全衛生にあります。」

労働安全衛生のためのマネジメントシステムである OHSMS(労働安全衛生マネジメントシステム)が、今年の3月に遂に国際標準規格 ISO45001 として発行されました。

本講演では、ISO45001 (JIS Q 45001)の制定経緯、その特徴及びプラスαとして日本独自の現場の安全衛生活動を加味した JIS Q 45100 について紹介」

- 労働安全を取り囲む世界の潮流について
  - ・ 安全安心を重視する社会の動向
  - ・ 企業に課せられている3つの安全
  - ・ 安全が事業の大前提
  - ・ リスクアセスメントの共通化手法の開発
  - ・ ビジョン・ゼロと7つのゴールデンルール
  - ・ 安全学から未来安全構想へ、他
- 労働安全衛生マネジメントシステムについて
  - ・ 労働安全衛生マネジメントシステムの経緯
  - ・ OSHMS と ISO45001
  - ・ 難産であった理由は？
  - ・ リスクの定義、他
  - ・ 官民協議会で各リスクレベルの措置内容の提案やヒューマンエラーの分析などリスクアセスメントの共通化手法の開発を実施している。
- JIS Q 45001 と JIS Q 45100 について
  - ・ JIS Q 45001 の JIS 化: 課題と期待
  - ・ JIS Q 45001 および JIS Q 45100 に対する我が国の対応
  - ・ OHSMS の本来の目的
  - ・ ISO45001 に対する期待 他

詳細は配布資料 308-2-1 を参照。

#### 配布資料

308-2-1「労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001 及び ISO45100 について」

#### 月例会説明資料

資料番号	資料名
308-1-1	「第6回 RA 委員会」報告」
308-1-2	「被災の可能性」はどのように評価すべきか」
308-2-1	「労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001 及び ISO45100 について」